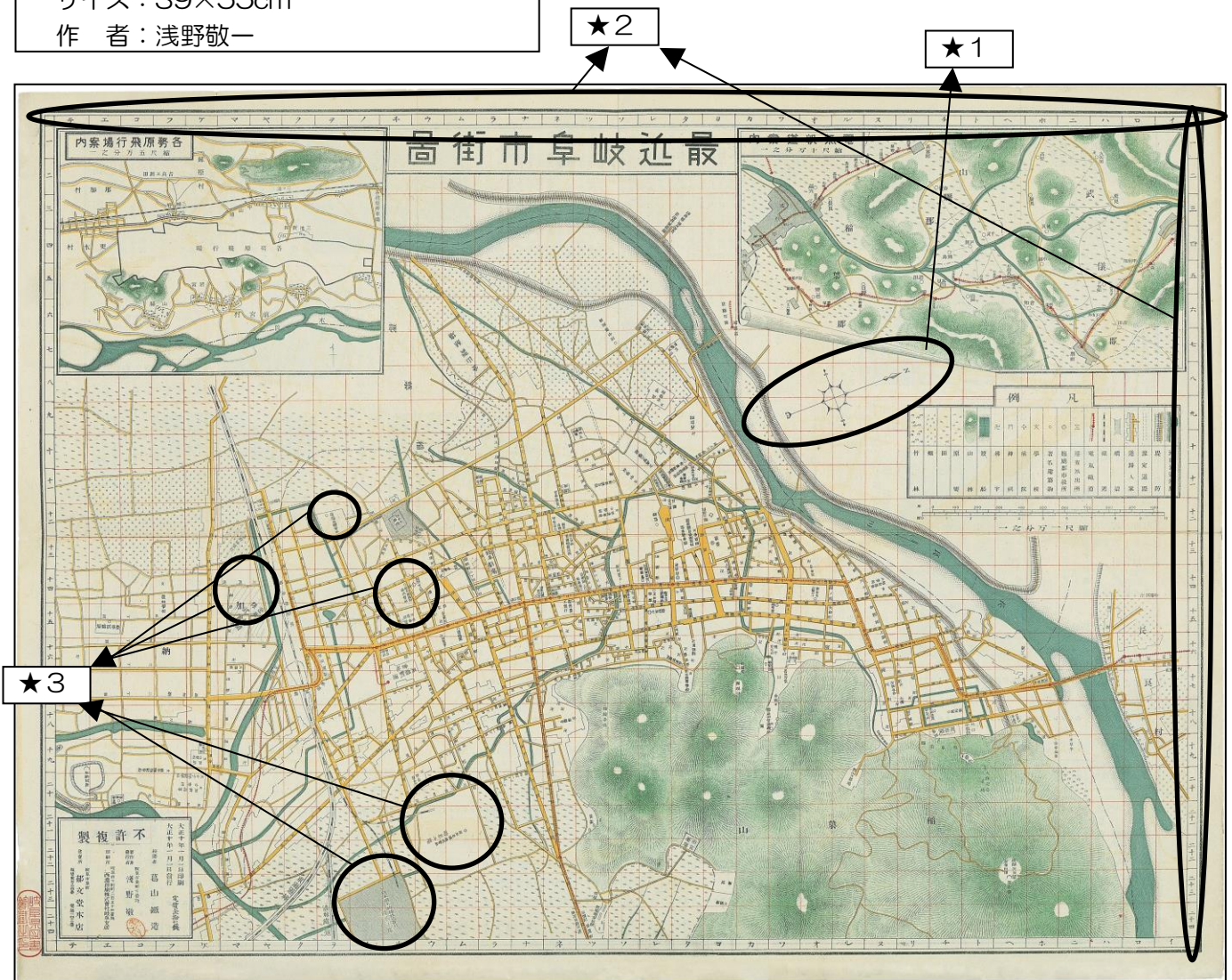


授業で使える当館所蔵地図

No. 28 『最近岐阜市街図』
作成年：1921（大正10）年
サイズ：39×55cm
作者：浅野敬一



【解説】

縮尺1万分の1の岐阜市街図である。道路には町名と何丁目がびっしり記載され、「市役所」や「東別院」、「岐阜劇場」、「美濃軌道会社」、「学校」などの様々な分野の建物も描かれており、現代との比較ができる地図となっている。メインストリートは八間道（現長良橋通り）であるが、国鉄（現JR）岐阜駅が1913（大正2）年に西（現在地）に移転したため、駅正面とは少しずれた位置になっている。なお裏面には、名所旧跡（岐阜城・岐阜大仏など）の解説と写真及び、国鉄からの里程表が掲載されている。

★1 方位

近代以降の日本の地図は原則北を上にして描かれているが、本図は西北西を上にして描かれている。右下に稲葉山を、上部に長良川を配置し、両者に挟まれた細長い岐阜町を中心とする市街地を横向きに描いており、地図の安定感と見やすさを意図した地図であると考えられる。

★2 縦1～24（漢数字）横イ～テの区切り

本地図の大きな特徴の1つは、縦24（漢数字）横35（イ～テ）のメッシュで区切りがあることである。本図の裏面には、岐阜市の町名が「イロハ早見表」として記載され、その町が地図のどこにあるかをすぐに探せるように工夫されており、現代の都市地図や道路地図等の索引に繋がっている。

★3 繊維業の発展

1914（大正3）年に第一次世界大戦が勃発し、国内工業が活況を呈するなかで、岐阜市の工業も好景気となり、生産を伸ばした。とくに、生糸・織物類の生産は、目をみはるものがあり、大正4年から大正9年までの6年間に、大正3年の生産額の約36倍にまで増加している。

大正3年：504,996円 → 大正9年：18,169,689円 ※約36倍

この結果、岐阜市の工業の中心は、提灯・傘類の生産から、生糸・織物類の生産へと転換し、後者が岐阜市工業のなかで支配的な地位を占めるに至った。

本地図中にも、「日本毛織株式会社」「日本絹毛紡績株式会社」「後藤毛織会社」「岐阜絹織物株式会社」「金華紡績株式会社」がある。岐阜市は、①東海道線に沿って東西市場の中間に在ること、②地勢上電力が豊富にあること、③工場労働者が十分に在ること、以上3点の立地条件から、岐阜駅の周辺につくられた。こうして、岐阜市の工業は、繊維工業を中心に発展していった。

【用語について】

・美濃軌道会社（美濃電気軌道株式会社）

美濃電気軌道株式会社は、1909（明治42）年に設立した会社である。1911（明治44）年に今小町から長住町までの市内電車を敷設するために、経費を市に寄付し、市が事業を行った。その後、1914（大正3）年には、新岐阜から笠松までの電車を開通させ、翌年には、市内電車線を長良橋の北側に延長するなど、市内外を結ぶ鉄道網の中心となった。1930（昭和5）年に名古屋鉄道株式会社と合併し、名鉄岐阜市内線となった。市内線は、2005（平成17）年に全線が廃止された。

・各務原飛行場

各務原飛行場は、1917（大正6）年に完成した、現在、最も長い歴史をもつ飛行場（現航空自衛隊岐阜基地）である。大正9（1920）年には、所沢の航空第二大隊が移転し、陸軍航空の拠点となった。その2年後には、「川崎造船所飛行機部（後に川崎航空機として独立）」が、後に陸軍最初の国産制飛行機となる「サルムソン2A-2型偵察機」の試作機を完成させるなど、日本の航空産業の発展において、極めて重要な飛行場となった。なお、軍の施設であるため、地図中では空白になっていると考えられる。

【利用の例】6年生「世界に歩みだした日本」※授業の発展的な内容として

○国の発展と共に、岐阜市でも駅周辺を中心に、繊維業が発展したことを捉えることができる。

→明治～大正にかけての、日本の産業の発展の様子を振り返る。

→岐阜市の、大正3年と大正9年の生糸・織物類の生産額を提示し、岐阜市も工業が発展したことをつかむ。

→地図中の繊維工場を探し、岐阜駅周辺に集まっていることを捉える。

○岐阜駅周辺に、繊維工場が集まっている理由について考えることができる。

→鉄道の普及とかわかわらせて、製品を鉄道で運びやすい場所であること、人や物が集まりやすい場所であることに気付かせる。

→電力が豊富にあることや工場労働者が十分にいたことも教師が紹介することで、岐阜駅周辺で繊維工業が発展した理由について理解できるようにする。

○岐阜市の産業の変化について、捉えることができる。

→岐阜市の工業の中心は、提灯・傘類の生産であったことを想起させ、この頃から、生糸・織物類の生産へと転換していったことに気付かせる。

○日本の産業の発展について、岐阜の様子からつかむことができる。

→美濃軌道会社、各務原飛行場が記載されていることから、電気鉄道の普及や航空機の生産が、岐阜の地でも行われていたことをつかみ、日本の産業の発展を実感することができる。

【参考文献】

『岐阜市史 通史編 近代』岐阜市

『各務原市史 通史編 近世・近代・現代』各務原市

『航空機<川崎航空機>』1967ダイヤモンド社